

# 文化遺産ニュース

Cultural Heritage News  
from NARA

Vol.  
38

March 2026

◎ 集団研修	1
◎ 文化遺産国際ワークショップ(ウズベキスタン)	2
◎ 個別テーマ研修(バラオ)	3
◎ 国際会議「考古遺跡の整備とオーセンティシティ」	4
◎ 文化遺産セミナー「飛鳥・藤原」が世界遺産となる意義」	5
◎ ICCROM総会参加記	5
◎ 世界遺産教室	6
サマルカンドの文化遺産	裏表紙



# 集団研修

2025年8月25日から10月2日までアジア太平洋地域10か国からの13名の研修生を対象に「木造建造物の保存と修復」をテーマにオンラインと招聘で実施しました。



東大寺持仏堂における実習



奈良井における実習



各国のケーススタディ発表

集団研修は、ACCU奈良事務所がおこなう人材養成の中核事業です。「木造建造物」と「考古遺跡」の2種類の研修テーマを、基本的には隔年で交互に実施していて、2025年は木造建造物をテーマにしました。文化庁、イクロム、国立文化財機構のほか、大学や地方自治体の方々が講師を務めました。

13名の研修生は、政府機関や博物館などで、自国の文化財保護に携わる若手担当者(平均年齢30代半ば)で、多くが建造物関連の現場で活躍中です。

研修は2023年度からオンラインと招聘のハイブリッド形式で実施しています。オンラインでは動画の配信に加えて双方向セッションを4回実施し、ビ

デオ教材に対する質疑応答など意見交換と共に実習や臨地研修の事前学習もおこないました。それらの基礎的な学習を踏まえた上で、9月19日から招聘研修では、東大寺の御協力を得て歴史的建造物の破損調査と修理計画策定の実習をおこない、奈良県文化財保存事務所の修理現場の視察や、木曾平沢・奈良井・白川郷で伝統的建造物群の保存活用の実例を見学しました。

オンラインの講義では、研修生はビデオ教材を自分のペースで何度も受講できるという利点があります。また、現地研修では実際に木造建造物をしっかりと観察し、作業を通じて学ぶという実

体験を得ることができました。ハイブリッド形式を有効活用した研修で、オンラインでも対面でも熱心な議論が交わされました。

## 参加国

バン格拉デシュ・ブータン・カンボジア・  
フィジー・インドネシア・マレーシア・  
ネパール・フィリピン・スリランカ・タイ

## カリキュラム(概要)

### ■動画による講義

次のテーマに従ったビデオ教材で学習しました

- ・文化遺産保存の世界の動向
- ・日本における木造建造物を守る制度
- ・日本の最重要な木造建造物の修理方針(単体)
- ・日本の伝統的建造物群の保存と活用(町・農村集落)
- ・世界と日本の木造建造物の保存修理

### ■実習

「単体の木造建造物の調査記録と修理方針の策定Ⅰ(痕跡調査)／Ⅱ(痕跡・破損調査)」  
(奈良市)東大寺持仏堂

### ■臨地研修

(奈良県桜井市)談山神社／(奈良県斑鳩町)法隆寺／(奈良県田原本町)多神社／(奈良県広陵町)百濟寺／(奈良県天理市)なら歴史芸術文化村／(長野県塩尻市)木曾平沢・奈良井／(岐阜県白川村)白川郷

### ■報告・討議

研修生各国のケーススタディについての報告と意見交換／建造物調査成果の意見交換

# 文化遺産国際 ワークショップ

2025年10月20日から24日まで  
ウズベキスタン共和国のサマルカ  
ンド市で実施しました。



イクロム講師の講義

ウズベキスタンでのワークショップは、2008年にタシケントで「遺物実測の方法および遺物写真撮影技術」についておこなって以来となります。今回は「考古遺物・博物館収蔵品のインベントリーとデータ管理」をテーマに実施しました。

ワークショップは海外の現地での講義と実習を中心に構成し、現地語での説明を通じて理解を深めることができるところに特徴があります。

研修は、ウズベキスタン文化遺産庁サマルカンド考古研究所でおこない、考古研究所のほかウズベキスタン各地の博物館職員など文化財の専門職員が計15名参加しました。今年度ワークショップとしては初めてイクロムから参加した講師による講義から開始です。作業実習を交えたユニークな講義に研



考古資料の登録管理の実習(講師:奈良県立橿原考古学研究所)

修生は引き付けられていました。考古遺物を適切に登録管理することは、収蔵品に関する情報を検索して簡便に物に到達できることにつながります。実習と講義の組み合わせによって、IDの大切さなどを学びました。ウズベキスタンでは発掘調査で動物の骨が出土することがよくあります。骨の部位や部分を同定する作業を実際の現生標本と比較することによって進めて行くことを実習と講義を通じて学びました。いずれの講義・実習も現地で手に入る資料を使った実践的な内容で、研修生からは熱心な質問が寄せられ関心の高さがうかがえました。

研修生の皆さんには、学んだ成果を国内各地での日々の実務に活かしてもうえればと考えています。



骨の台帳作成実習(講師:奈良文化財研究所)



参加者の皆さん

## カリキュラム

### ■講義

「インベントリー概論」「考古情報の整理」「考古資料の管理」「動物骨の整理と台帳作成骨が語るストーリー」

### ■実習

「インベントリーに関するアクティブラーニング」「プロジェクトIDをつくる」「リストを作り、情報を表示する」「考古資料を収蔵する」「骨の台帳作成骨の基礎知識・発掘現場での留意点」

### ■グループワークと討論

実習成果のグループ発表と講評、討論

# 個別テーマ 研修

2025年11月10日から14日まで、パラオ共和国から2名の研修生を招聘し「気候変動に対応する文化遺産保護」をテーマに実施しました。



パラオにおける文化財保護の現状と課題を発表



写真撮影実習(於:奈良文化財研究所写場)

本年は「気候変動に対応する文化遺産保護」3D技術と持続的な遺産の保存活用」と題して研修を実施しました。個別テーマ研修の特徴のひとつは、参加者の要望に沿ったオーダーメイドのカリキュラムを編成できる点です。海面上昇や台風・高潮といった気候変動の下での文化財保護という、大洋州の小さな島国がかかえる課題解決の一助となるように企画しました。

研修生は、パラオでの文化遺産保護の現状と課題を報告した後、遺跡の劣化観察へのデジタル計測技術の応用や遺物の記録への3D(三次元)データの活用に関する講義を受けました。その上で3Dデータ取得の基礎となる写真撮影方法と3Dモデル作成実習をみっちりとおこないました。パラオの文化遺産は石造で複雑な形状のものが多く、写真を基にした3D記録や計測が活躍しそうです。



3Dモデル作成実習(於:奈良文化財研究所)

最終日は3Dデータを活用した博物館展示について臨地研修をおこない、データを死蔵せず有効利用する方法について学ぶことができました。

パラオの皆さんが新しい技術を活用した調査研究・公開展示を実践し、海面上昇や気候変動といった負のインパクトに対抗して、文化遺産を守る活動に活かして下さることを願っています。

## カリキュラム(概要)

### ■講義

「デジタル計測技術による石造文化財の劣化観測と評価」考古学のための3Dデータ活用  
遺物記録から博物館展示まで」

### ■実習

「文化財3D化に向けた写真撮影実習 カメラ設定と撮影技法の理解」SLM-MS技法による文化財3Dモデル作成実習」

### ■臨地研修

「博物館における3D技術の活用」博物館における実践的アプローチ(大阪市/大阪歴史博物館)

### ■講師

奈良文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・大阪歴史博物館



大阪歴史博物館と法円坂遺跡

# 国際会議

2025年12月17日と18日、文化遺産保護に携わる7か国の15名の専門家を招聘し、「考古遺跡の整備とオーセンティシティ」をテーマに意見を交わしました。



基調講演の様子



会議の様子



パネリストの皆さん(奈良市 平城宮跡にて)

昨年の国際会議では「世界文化遺産とオーセンティシティ」と題してオーセンティシティ(真正性)を考えました。本年は、対象を考古遺跡に広げて議論をおこないました。

17日の午前中に世界遺産である平城宮跡の第一次大極殿、東楼復元工事現場などを見学し、整備方針や復元建物など全体の整備計画の中で果たす位置づけなどを学びました。午後は、本中眞氏による「考古学的遺跡における木造

建造物の復元 世界遺産「古都奈良の文化財・平城宮跡」を事例として」と題する基調講演で会議が始まりました。次いで、遺跡復元に関する講演が2本あり、文化遺産の価値と復元・再建に関する理解を深めました。

18日におこなわれた事例発表では、アジア各国(日本、中国、モンゴル、韓国、ベトナム)における考古学的遺産の復元や再建に関する多様な実践と理論が示され、それをもとに討議がおこ

なわれました。

復元には、物理的な原寸大での再建以外にも様々な手法があり、それぞれの文脈に応じた選択肢として手法が選ばれ、各国で実践されていることが明らかになりました。

さらに、「復元(再建)」の概念は国ごとに解釈が異なる課題も浮き彫りとなりました。失われた考古遺跡における建物構造の復元は、価値を伝える手段であると同時に、実証・教育、伝統技術の継承など新たな価値

を生む事例も多くあります。このため、復元の意思決定においては、真正性や完全性、資料の信頼性、そして遺跡内における復元建物の役割などを総合的に考慮する必要があります。また、復元の価値は固定的ではなく、社会的・文化的文脈の中で再評価されるものです。

こうした議論を通じ本会議は、復元(再建)を単なる再現行為にとどめず、遺産の価値を再考し、そこから生まれる新たな価値や文化的意義を捉える重要性を改めて示す機会となりました。

この会議のインターネット配信には19か国182名のオブザーバーが参加しました。

# 文化遺産 セミナー

奈良公園バスターミナルレクチャーホールで「飛鳥・藤原」が世界遺産となる意義」と題して開催し192名の方が受講されました。



鈴木地平さんの講演の様子

奈良県では「飛鳥・藤原の宮都」の世界文化遺産への登録を目指しており、ACCUでは関連する講演会を毎年開催してきました。

奈良公園バスターミナルレクチャーホールを会場として2026年1月17日、文化庁の鈴木地平さんが「飛鳥・藤原」が世界遺産となる意義」と題する講演をおこないました。

まず世界遺産とは何かをおさらいをしました。世界遺産条約と、世界遺産の種類の件数を振り返ります。世界遺産の条件を満たす「顕著で普遍的な価値」を有する必要があり、保存・管理体制がしっかりとってなくてはなりません。

世界遺産登録までの道のり(長い!)の説明もありました。

登録を待っている「飛鳥・藤原の宮都」を構成する18の資産は飛鳥の宮都、藤原の宮都それぞれで、宮殿・官衙跡、仏教寺院跡、墳墓からなります。これらが古代東アジアにおいて中央集権体制を具現化した古代宮都が形成され過程を示す唯一の証拠です。その価値を伝えるための取り組みも紹介されました。

世界遺産への登録は時代とともにその内容に変化が出てきています。文化財の価値は、限られた人のものではなくて、みんなで共有すべきものであり、世界遺産になった結果、地元の人も幸せになることが理想であると述べられました。

ACCU文化遺産セミナー2025  
「飛鳥・藤原」が世界遺産となる意義

2026年1月17日(土)  
13:00~15:00 (開場 12:30)

会場：奈良公園バスターミナルレクチャーホール  
講演：鈴木地平氏 (文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室文化財調査官) [\*手話通訳あり]  
定員：300名 [\*先着順のため、応募期間中であつても定員に達した時点で募集を締め切ります。]  
応募期間：2025年11月4日(火) - 11月30日(日)

事前申込制(先着順)  
参加費無料

主催：公益財団法人エヌエヌアジア文化センター文化遺産保護国際協力事務局 (ACCU奈良)  
後援：奈良県、奈良市、世界遺産「飛鳥・藤原」管理委員会

セミナー開催案内のポスター

## イクロム総会 への出席

2025年12月10日から12日にローマにあるイクロム(ICCROM/文化財保存修復研究国際センター)の総会に出席しました。

イクロムは、文化遺産の保護を推進するために1959年にユネスコがローマに設立した国際的な政府間機関で、ACCU奈良事務所がおこなう各種事業のなかで、特に集団研修と国際会議の開催に際して、さらに本年は加えてワークショップにおいても大切なパートナーとなつていきます。日本からも、文化庁が専門の職員を派遣して常駐しています。

総会は2年に一度開催され、今回で第34回となります。グジュラル所長が主催する初めての総会で、前回と比較すると、準備や運営に関してい



奈良市立一条高校附属中学校

# 世界遺産 教室

高校生と中学生計572名が受講  
しました。



奈良女子高校

奈良県内の高校生等を対象に、世界遺産研究家が出前授業をおこなない、世界遺産に関する知識を深めるとともに文化遺産保護の大切さを理解してもらうために世界遺産教室を開催しています。今年度は中学校1校と高校5校で教室を開きました。歴史や観光を特に学んでいる学校からの要望が多いという特徴がありました。

奈良県は数多くの文化遺産に恵まれ、世界遺産も都道府県の中で最大数があります。そこで奈良県の歴史と文化について学ぶことを足がかりに、日本全体そして世界へと視野を広げて世界遺産条約が生まれた背景や目的・意義、世界遺産の現状と課題について学



奈良商工高校

ぶ場を提供する世界遺産教室の果たす役割は大きいと考えています。

講師は長年、世界遺産教室の講師を務めておられる、フリーアナウンサーの久保美智代さんに多くをお願いし、1校では今年度も正倉院事務所に講師をお願いしました。受講生の皆さんは、世界各地の世界遺産を現地で撮影した美しい映像を見て、クイズなども交えた講師の熱い語りを熱心に受講していました。

## 開催校

高田高校・法隆寺国際高校・奈良商工高校・奈良県立大学附属高校・奈良女子高校・奈良市立一条高校附属中学校



ICCROM総会

ろいろと改訂された部分がありました。

イクロムには前総会以降に、ウズベキスタンおよびサンマリノが新たに加盟し、加盟国が139か国となりました。現代では、気候変動や紛争下における文化遺産保護の重要性が認識されています。グジュラル所長は、文化遺産を通じて地域社会を強化し、平和につなげていくと発言しました。

イクロムにおいては、総会の場以外でも関係者と話し合いの場を持つことができ、ACC奈良事務所の研修事業をさらに良いものとするこへのヒントを得ることができました。

# サマルカンドの文化遺産



表紙の写真：レジスタン広場

ウズベキスタンには5つの世界文化遺産があり2001年に登録された「サマルカンド 文化の交差点」はそのひとつです。多くの記念物や遺跡が含まれています。

三方を建物に囲まれたレジスタン広場は、代表的な遺産として多くの観光客を集めており、プロジェクションマッピングといった催しにも利用されています。チムール廟やシャヒジダ廟群などでも、美しいタイル装飾が目につきます。チムール朝期の繁栄が偲ばれます。これに対しアフラシアブの遺跡は、それ以前の都市遺跡でソグド時代の細密な装飾壁画が発見されていることで有名です。

このようにサマルカンドは文明の交差する場所として、シルクロードの中心地として長い歴史の重なり合いを見せている魅力的な土地となっています。



上左：アフラシアブ遺跡 上右：夜のレジスタン広場 下左：チムール廟 下右：タイル装飾

## 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



〒632-0032 奈良県天理市杣之内町437-3  
(なら歴史芸術文化村 文化財修復・展示棟2階)

TEL 0743-69-5010  
FAX 0743-69-5021  
URL <https://www.nara.accu.or.jp/>  
E-mail [nara@accu.or.jp](mailto:nara@accu.or.jp)

### 交通アクセス

近鉄・JR天理駅から ●バス1番のりばから直行シャトルバス